

## 岡山県のサケ・マス類養殖は今

本県北部の山間部では、比較的冷涼な気候であることから河川水や谷水を利用して冷水性のサケ・マス類養殖が古くから行われています。県内では主にアマゴやニジマス(図1)が養殖されています。県内の養殖経営体数はこの40年間で、ピーク時の45経営体(H元年度)から14経営体(R2年度)まで落ち込んでいるものの、ここ10年間の経営体数を見るとほとんど減少しておらず、横ばいで推移しています(図2)。これは就業者の高齢化や後継者不足等の問題など厳しい経営環境の中、廃業する経営体がある一方で、新規就業者の参入があるためです。そのような人はほとんどが都会から移住してくる若い人です。例えば、新規就業者の中には廃業した養殖場の施設を譲り受け、施設等に手を加えてそのまま事業を継承し、軌道に乗ったら規模を拡大している人もいます。ほとんどの人が養殖ノウハウは独学のため、ことあるごとに当水産研究所が現場に出向き技術指導を行っています。

また、養殖業者の高齢化に伴う後継者不足から地場産業の衰退が懸念されるため、地元自治体が全国から「地域おこし協力隊員」を募集し、隊員として養殖を始める例もあります。隊員としての任期中は、地元自治体から給料をもらい、自治体の仕事として養殖場に勤務することで養殖技術を習得し、任期後は養殖場の事業が容易に継承できます。この方法で就業すると、養殖施設の建設や経営ノウハウなど一から手がける必要がなく、費用と時間が節約できるメリットがあります。

このように県内のサケ・マス類養殖は今、少しずつですが若い経営者の参入が見受けられています。どの人も「田舎に住んでみたい」、「魚を飼うのが好き」ということが大前提で就業しています。これまでの都会生活と比べ不便な点や生き物を飼育する大変さ等、これからさまざまな苦勞があろうかとは思いますが、養殖業を通じて地域を盛り上げていただけたらと思います。(海面・内水面増殖研究室：泉川)

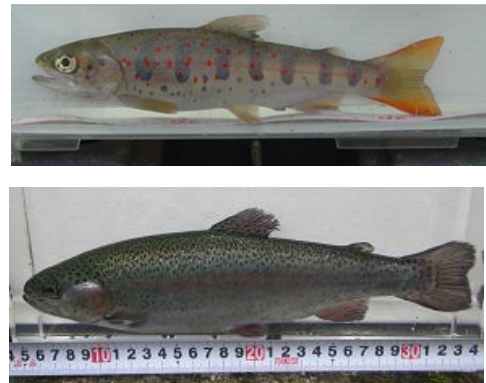


図1 アマゴ(上) ニジマス(下)

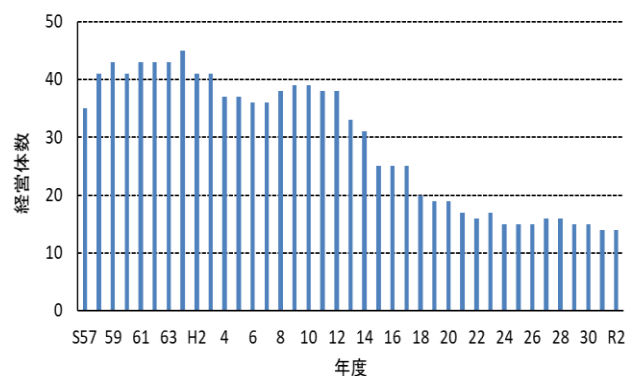


図2 岡山県内のサケ・マス類養殖経営数の推移  
(岡山県水産研究所調べ)